



東大まちづくり大学院

Urban Engineering Civil Engineering Architecture

2025年度コース案内



東京大学大学院工学系研究科
都市持続再生学コース

**Master's Program in
Sustainable Urban Regeneration**

東大まちづくり大学院で学ぼう.....	1
教員紹介.....	2
教育プログラムの特色.....	4
修士研究紹介.....	6
修了要件と学位.....	8
入学試験.....	9



東大まちづくり大学院で学ぼう

(工学系研究科 都市工学専攻 都市持続再生学コース 社会人向け修士課程)

社会人のためのまちづくり大学院

東大まちづくり大学院(都市持続再生学コース)は、社会人向けの大学院修士課程で、東京大学大学院工学系研究科の都市工学専攻、社会基盤学専攻、建築学専攻の3専攻がサポートします。まちづくりに関連する広い分野の実務経験者を対象に、総合的な教育を行い、まちづくりの現場において中心となって活躍する高度な知識をもった専門家を養成することを目的としており、国内に類例のないプログラムです。

学生像は、自治体都市計画関係職員・政府機関職員、不動産・建設・その他関連企業都市開発担当者、まちづくりNPOメンバー、まちづくりに関心をもつ社会人など多岐にわたると想定されており、実際に在校生は年齢20代から60代まで、職場も自治体あり、民間企業ありと多彩です。

人口減少、国際化、情報化等が進行する中で大きく変わる都市社会やまちづくりに、最新の知識と深い思考で立ち向かうために、ぜひ「東大まちづくり大学院」で学んでください。

特徴

■在職したままで修了可能

夜間・土曜日の受講により在勤のまま所定の単位を修得することが可能です。
入学時に長期履修学生制度を申請すれば、同額学費で修学年限を3年または4年に延長することも可能です。

■横断的な教育プログラム・充実した講師陣と産学官の連携

東京大学大学院工学系研究科の3専攻の協力体制のもと横断的な教育プログラムを展開します(学生の所属は都市工学専攻)。教授陣は、学術面においてトップクラスの第一人者や新進気鋭の若手教員の他、国土交通省等の官庁・自治体・民間企業等で豊富な実務経験を有する優れた専門家で構成されています。また、本コースの中に、(株)大林組、鹿島建設(株)、清水建設(株)、住友不動産(株)、積水ハウス(株)、大成建設(株)、(株)竹中工務店、(株)日本政策投資銀行、東日本旅客鉄道(株)、三井不動産(株)、三菱地所(株)、森ビル(株) (五十音順) の合計12社のご協力で、寄付講座(都市持続再生学寄付講座 Laboratory for Urban Sustainable and Renaissance Studies)が開設され教育・研究に当たっています。

■教育プログラムの特色

実践に必要な理論、知識、技法・技術を学ぶための文理融合型講義内容です。持続可能な都市地域づくり、高齢化社会対応のまちづくり、安全安心のまちづくり、活力ある魅力的なまちづくり、協働のまちづくりなどの現代的な都市再生課題を取り上げます。広範囲な基礎知識を講義で身につけ、理論や技法・技術の応用・活用方法については、演習で理解を深めるという段階的な教育プログラムを採用しています。仕上げは、個別指導による修士論文のための研究で行います。



dean of the school of engineering



■工学系研究科長
加藤 泰浩 教授

東京大学大学院工学系研究科は、現代社会が直面する様々な課題の解決を目指す高度工学人材を育成するために、多様な教育プログラムを用意しています。社会人を対象としたまちづくり大学院もそのひとつです。まちづくり大学院は、都市工学専攻、社会基盤学専攻、建築学専攻の三専攻が協力して設立された分野横断型の教育プログラムで、すでに第四期18年目に入りました。理論と実践の融合を実現したカリキュラムを通じて、多様な側面から「まち」の課題を分析する力を習得した上で、有効な解決策を提案できる「まちづくりのプロフェッショナル」を養成します。本プログラムを最大限に活用して専門知識と実践能力を磨いていただき、修了後はまちづくりの第一線で活躍されることを大いに期待しています。

chairs of the departments concerned



■都市工学専攻長
片山 浩之 教授
専門分野：水質衛生工学、上下水道工学、環境微生物工学

東大まちづくり大学院は、大学卒業後、社会での経験を積んだ上で、改めて都市や地域について学びたい方のためのプログラムです。人生100年時代、学びは一度きりではなく、社会に出た経験を活かして新たな学びに触れ、より充実したステップへとつなげることも可能です。本大学院では、実践的かつ多角的な視点からまちづくりを探究し、多様性がありつつも同じ志を持つ仲間と共に学ぶことで、新たな挑戦への扉を開いてください。



■社会基盤学専攻長
堀田 昌英 教授
専門分野：建設マネジメント

「まちづくり」とは、人々がまちに求める多様な思いを、共有された現実空間として実現する営みと言えます。本プログラムでは、都市が抱える様々な社会課題の構造を多面的に捉え、異なる人々の異なる考えを真摯に受け止め、取るべき技術的・政策的の方策を具体的に提示するという「まちづくり」の実践活動の礎となる専門知を提供します。関連する幅広い領域を俯瞰しつつ、参加者自身が実務者として取り組む固有の問題に新たな答えを見出すことのできるよう、関係教員一同努めて参ります。



■建築学専攻長
伊山 潤 教授
専門分野：建築鉄骨構造、耐震設計、構造モニタリング・センシング

都市工学、社会基盤学、建築学といった実学は、各分野に蓄積された研究成果を統合し、社会に実装してこそ、その価値が最大限に発揮されるものであります。みなさんがお持ちの実務経験に加えて、東大まちづくり大学院で学ぶことのできる幅広い技術・知見や、そこで出会う多彩な人々との交流経験を活かしていただくことにより、都市社会における様々な問題を解決し、持続可能性や安心安全といった高度な要求に応えることのできる新しい世代の都市の実現に向けて、一層活躍いただけるものと信じています。



■まちづくり大学院コース長
小泉 秀樹 教授
専門分野：コラボラティブ・プランニング、まちづくり論、コミュニティ・デザイン

東大まちづくり大学院は、都市計画、まちづくりの実務経験者に対する高度かつ総合的な教育を行い、日本やアジアを含む世界の都市計画・まちづくりの現場において持続可能な都市の形成・再生を实践・主導する高度専門人材を養成することを目的として設立されました。本コースの特色の一つに、現役院生に加え、OB・OG、教員、多彩な外部講師陣らかなる人的ネットワークの存在があります。高い専門性とともなう人的ネットワークを獲得・活用し、各地のプロジェクトで活躍する人材となることを期待されています。

■都市工学専攻

- 小泉 秀樹 教授
- 蕭 耕偉郎 准教授
- 瀬田 史彦 准教授
- 高取 千佳 准教授
- 高見 淳史 准教授
- 中島 直人 教授
- 中島 典之 教授
- 樋野 公宏 准教授
- 藤田 壮 教授
- 真鍋陸太郎 教授
- 村山 顕人 教授
- パラディ・ジアンカルロス 講師
- 吉江 俊 講師
- 飯田 晶子 特任講師
- 中島 弘貴 特任講師
- 西 颯人 特任講師
- 山崎 嵩拓 特任講師
- ほか、都市工学専攻教員

コラボラティブ・プランニング、まちづくり論、コミュニティ・デザイン
アジア都市空間論、ジェントリフィケーション論、参加型まちづくり
人口減少局面の国土・地域・都市政策
緑地計画、ランドスケープデザイン
都市交通計画、交通と土地利用の統合的計画
都市デザイン、都市論、都市計画史
生態毒性学、都市雨水管理、環境水質化学
居住セキュリティ、都市居住・住環境
都市産業共生システム、技術アセスメント、SDGs 未来都市
まちづくりと情報、都市計画
環境負荷低減・減災に向けた都市計画、計画策定技法
都市交通計画、交通行動分析、社会的ネットワーク分析
都市デザイン、都市再生、都市計画思想
緑地環境計画、ランドスケープデザイン
都市ガバナンス、リジェネラティブ・デザイン
空間統計解析、住宅・不動産市場分析
ランドスケープ計画

■先端科学技術研究センター

- 廣井 悠 教授 都市防災、防災まちづくり、リスク工学

■生産技術研究所

- 加藤 孝明 教授 地域安全システム学、減災・復興まちづくり、自然災害リスク評価、計画支援システム

■社会基盤学専攻

- 羽藤 英二 教授 都市生活学、ネットワーク行動学、都市マーケティング論
- ほか、社会基盤学専攻教員

■建築学専攻

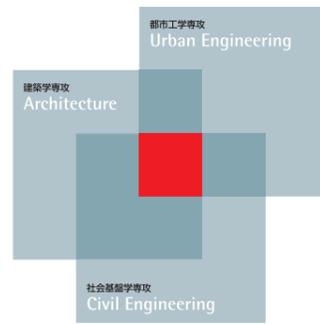
- 岡部 明子 教授 建築環境デザイン、建築まちづくり、公共空間論
- ほか、建築学専攻教員

■非常勤講師(予定を含む)

- 明石 達生 東京都市大学都市生活学部 教授
- 雨宮 克也 三井不動産エンジニアリング株式会社 取締役会長
- 岡井 有佳 立命館大学理工学部環境都市工学科 教授
- 木内 望 国土交通省国土技術政策総合研究所 シニアフェロー
- 亀掛川幸浩 明星大学理工学部 教授
- 片山 健介 長崎大学大学院総合生産科学域(環境科学系) 教授
- 熊谷 玄 株式会社スタジオゲンクマガイ 代表取締役
- 後藤 純 東海大学建築都市学部建築学科 准教授
- 鈴木 俊治 芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 教授
- 志摩 憲寿 東洋大学国際学部 准教授
- 高松 誠治 スペースシンタックス・ジャパン株式会社 代表取締役
- 田中 智之 早稲田大学理工学術院 創造理工学部 建築学科 教授
- 永井 ふみ 文化庁文化財第二課 文化財調査官
- 信時 正人 エックス都市研究所 理事
- 増田 寛也 日本郵政株式会社 取締役兼代表執行役社長
- 森 民夫 元長岡市長・全国市長会会長
- 和良地克茂 和良地アソシエイツ合同会社 代表社員

*教員の最新情報は、東大まちづくり大学院のサイト(<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps/faculty.html>)をご覧ください。

教育プログラムの特色



充実したコースワーク

従来の研究重視型大学院教育とは異なり、実践に必要となる広範な理論、技法・技術を獲得するため、文理融合型の充実したコースワークを用意しています。

現代的都市再生課題に焦点をあてた段階的な教育プログラム

持続可能な都市地域づくり、高齢化社会対応のまちづくり、安全安心のまちづくり、活力ある魅力的なまちづくり、協働のまちづくり、といった現代的な都市再生課題を講義の主題に捉え、これら課題に取り組む際に実際に役立つ理論、知識、技法・技術を身につけ、必要とされる企画構想力・調整能力を養います。

段階的な教育プログラム

異なる講義形式を用いた段階的な教育プログラムにより、効率的に受講生の能力を高めます。広範にわたる基礎知識を座学型講義で身につけ、都市再生実務における理論や技法・技術の応用・活用方法についてはケースメソッドで理解を深めます。そして、実務実践型講義では身につけた知識を活かすために必要となる構想・調整能力を養います。

■講義

都市空間政策 (選択:1単位/半学期)

都市の空間計画、交通政策、環境政策、安全・安心、都市福祉政策、都市のガバナンス、都市の文化・観光政策、アセスメントとPDCAといった広範な領域について、充実した講師陣による最先端の講義によって、現代の都市づくり・まちづくりに必要な知識を獲得します。

都市経営基礎 (選択:各2単位/1学期)

マネジメント、行財政制度、住宅・不動産開発、都市社会論といった広範な領域について、社会科学系の基礎知識を体系的に獲得します。

都市経営戦略 (選択:各2単位/1学期)

都市の産業と経営戦略に関する講義群により、都市経営や都市政策の立案に必要とされる、より実践的な知識を獲得します。

その他 (上記の講義の一部または特別講義により行うもの)

省庁担当官等による都市関係制度・事業、自治体による先駆的試み、最新の都市開発事例などを紹介・概説する講義・セミナー、学術研究や論文執筆の手法を概説する講義、また自治体首長、先進事例の実践者、海外の著名研究者による講義・講演などを予定しています。

■演習

まちづくり演習 (1年次) (必修:3単位/1学期 全6単位)

日常生活圏のまちづくり、持続可能な都市圏計画、パブリックライフ/パブリックスペースの計画、都市空間・環境・コミュニティのデザインなど、現代におけるプランニングの主要課題を対象に、都市再生の第一線で活躍する専門家(非常勤講師を含む)による実践的指導のもと、政策・手法・戦略・事業の企画構想・提案を行います。演習では、ケースメソッド方式の講義を踏まえつつ構想・提案を行います。

まちづくり演習 (2年次) (選択:最大2単位/1学期)

学生の発意により、自由にテーマを設定して不定期に行います。過年度には、都市開発事業の企画設計などのテーマを扱いました。

■研究

都市持続再生学特別演習 (修士研究 必修:2単位/1学期 全4単位)

学生の実務・関心に直結した研究を2年次より行います。

講義: 平日夜 火・水・木・金

6限: 18:40~20:05、7限: 20:10~21:35

演習: 土曜日 3-5限: 13:00~18:35

研究: 随時

	A1・A2ターム(冬学期)	S1・S2ターム(夏学期)	
1年次(2年次以降も履修可)	講義 都市空間政策 (選択) 各1単位(半学期) 火・水・木・金(6限、7限)	都市地域計画論・基礎編 ●都市計画制度概説、都市・地区スケールの計画策定技法 都市情報の分析 I ●都市解析 都市情報の分析 II ●交通・土地利用・人口分析とGIS 人口減少まちづくり論 ●人口減少下において持続可能な都市と計画のあり方 都市の文化・観光政策 ●都市における文化と観光要素	都市地域計画論・街並編 ●都市デザイン、景観とまちづくり 都市の交通政策 I ●交通まちづくり、持続可能な都市、合意形成の実践 都市の交通政策 II ●交通まちづくり、交通バリアフリー、少子高齢化社会 脱炭素論 ●建物・地区・都市レベルの脱炭素の政策と技法 都市防災概論 ●災害対応を中心とした都市の防災・減災政策 都市の文化・観光政策 ●都市における文化と観光要素
	都市経営基礎 各2単位(1学期)	都市の公共政策と法制度 ●都市計画に関する諸制度とその運用 都市社会論 ●社会学的な視点と都市問題	都市再生・不動産開発事業とファイナンス ●都市・不動産開発の実務
	都市経営戦略 各2単位(1学期)		都市産業と経営戦略 ●産業活動の動向とイノベーション
	その他 1単位(1学期)		学術研究基礎 ●研究および論文執筆の手法
	演習 各3単位(1学期)(必修) 全6単位 土曜3-5限	日常生活圏のまちづくり ●少子高齢化社会に対応したまちづくり手法 持続可能な都市圏計画 ●人口減少・脱炭素・ニューノーマルに向けた都市・広域スケールの戦略の検討	パブリックライフ/パブリックスペース ●快適性、美しさ、賑わい、路上空間の活性等の戦略と手法 ランドスケープ/コミュニティデザイン演習 ●都市のランドスケープとコミュニティをデザインする
2年次	演習 最大2単位(1学期)(選択) 不定期	※自由テーマ(学生の発意により設定)	
	研究 各2単位(1学期)(必修) 全4単位 随時	修士論文研究	修士論文研究

■特別講義(随時開催) ■他コース、他専攻講義(平日昼間開催・自由選択) ■演習(選択)については、希望学生が少ない場合など開講しないことがあります。

*上図は、各講義の大まかな開講時期と概要を示しています。より正確な開講時期やシラバスは、各学期開始前にご確認ください。また、現在のシラバスは東大まちづくり大学院のサイト(<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps/curriculum.html>)でも公開しています。

master's research

修士研究紹介

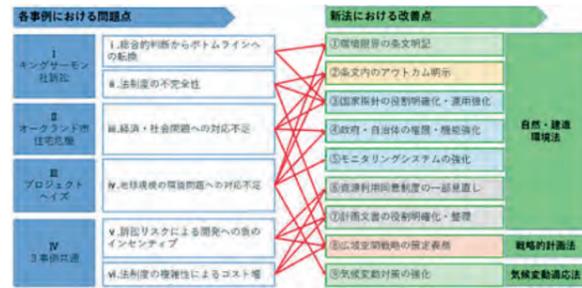
まちづくり大学院では、講義や演習で習得した知識や技術を基礎として、教員の個別指導のもと、各学生が自身の実務、関心に応じた研究を行います。ここではその成果の一部をご紹介します。



小松 俊也

第14期/2022年9月修了/地方公務員

論文タイトル:資源管理法制度改革にみるニュージーランドの都市農村計画制度の課題と展開—資源管理審査委員会報告書と3つの事例の分析—



私は、ニュージーランドの市役所におけるインターンシップの経験などを活かし、同国で進められている資源管理法制度改革を研究した。1991年資源管理法は都市農村計画の中に持続可能性の概念をいち早く取り入れた先駆的な法律だったが、都市開発の軽視、環境保全の不足、計画の複雑性など、運用の中で様々な問題が指摘された。法制度改革を目的に設置された資源管理審査委員会の報告書では、主に同法の代わりとなる新法と、分野横断的・広域的・長期的・包摂的な空間戦略の策定、気候変動への適用を目的とした法の制定が提言された。本研究では、資源管理法の運用で生じた課題を事例に基づいて整理した上で、新法における改善策との対応を明らかにし、環境保全と都市開発の両立を図る都市農村計画の制度設計について示唆を得た。持続可能な都市づくりの重要性がさらに高まる中、修士研究や本大学院での学びを活かし、より良い社会の実現に貢献していきたい。



中西 由紀

第14期/2023年9月修了/マーケティング会社経営

論文タイトル:美食の街サンセバスチャンの戦略計画に関する研究—その役割と有効となる仕組みに着目して—

約10年で世界的な美食の街として再生したスペインの中堅都市「サンセバスチャン」に興味を持ち、まち大の門を叩いた。

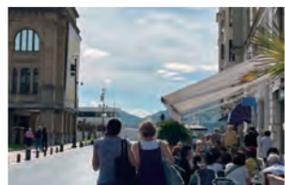
街の再生を支えたのが、修士研究のテーマである「戦略計画」である。市民や街のステークホルダーで構成される社会評議会が策定する戦略計画は、街の最上位計画として位置付けられ、市の個別計画も戦略計画を考慮して策定される。社会評議会は、戦略計画の策定だけでなく、街の発展のために重要なプロジェクト等も計画・実行する権限を持っている。このような街の運営に直接市民が参加するスペインの都市の仕組みを、どのように日本の地方都市に応用できるかを明らかにするために、現在は博士課程に進学して研究を続けている。



モンテウグルからみたサンセバスチャンの街並み



約200件のビルがひしめく旧市街。観光シーズンには人で溢れる



中心街にはほとんど車はなく、歩きやすい環境が整備されている



街中に、車道・自転車道・歩道がきちんと整備されている



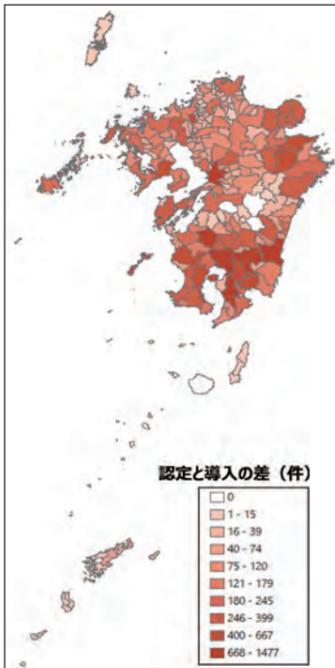
岡澤 由季

第12期/2020年9月修了/シンクタンク

論文タイトル:九州電力管内における太陽光発電の立地要因

私はシンクタンクで再生可能エネルギー関連の調査研究・コンサルティングに携わってきた。再生可能エネルギー発電事業の導入が増えていく中で、地域との調和を考慮するためにまちづくりの勉強をしたいと思い、まちづくり大学院に飛び込んで2年間、先生方や同期に恵まれ、充実した大学院生活を送ることができた。

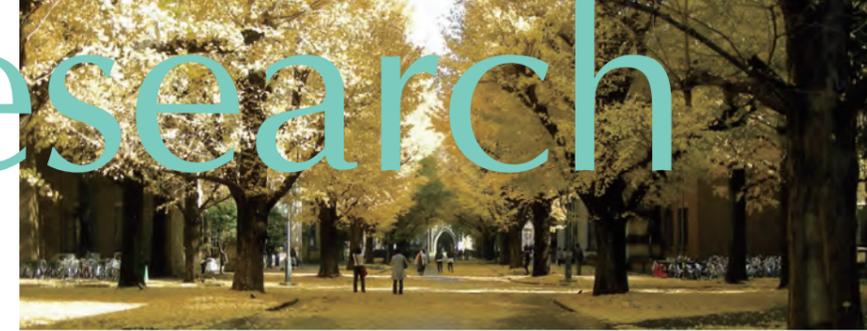
修士論文では、「九州電力管内における太陽光発電の立地要因」というテーマで、太陽光発電事業を対象に立地要因を都市工学の観点から分析した。先生方の丁寧な指導のおかげで、成果をまとめ、査読付き論文を投稿することもできた。現在、博士課程に進学し、引き続き研鑽を積んでいるが、その基礎になったのはまちづくり大学院での学びであり、感謝している。



九州地方における認定と導入件数の差
国土数値情報・資源エネルギー庁事業計画認定情報より筆者作成

アメリカと日本のプレイグラウンド・ムーブメント比較年表

年	世界の動向	日本	備考
1985	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
1986	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
1987	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
1988	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
1989	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
1990	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
1991	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
1992	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
1993	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
1994	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
1995	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
1996	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
1997	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
1998	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
1999	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
2000	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
2001	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
2002	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
2003	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
2004	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
2005	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
2006	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
2007	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
2008	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
2009	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
2010	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
2011	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
2012	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
2013	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
2014	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置
2015	Recreation center	公園遊具設置	公園遊具設置



花内 誠

第14期/2022年9月修了/広告代理店→大学教員

論文タイトル:日本におけるプレイグラウンド・ムーブメントの展開過程としての運動場問題～昭和戦前期「運動公園」の成立まで

幸福は「やってみよう」「あなたらしく」「なんとかなる」「ありがとう」の4つの因子からなるらしい。

「やってみよう」私は広告代理店でスポーツビジネスに携わってきた。日本と欧米のスポーツ環境の違いに疑問を持ち、日本のスポーツと都市の関係を再考する必要を感じ、まちづくり大学院に飛び込んだ。

「あなたらしく」修士論文では、「日本におけるプレイグラウンド・ムーブメントの展開過程としての運動場問題～昭和戦前期「運動公園」の成立まで」というテーマで、欧米のスポーツ環境の源流であるプレイグラウンド・ムーブメントが日本のスポーツ環境に与えた影響を研究した。

「なんとかなる」先生方の丁寧な指導と仲間の助言のおかげで、成果をまとめ、査読付き論文も投稿することができた。

「ありがとう」修了式の翌月に会社を定年退職し春から大学教員となる。一方で、博士課程に進学し研究を続ける。幸福の機会を与えてくれたまちづくり大学院に感謝している。



遠山有里恵

第11期/2021年9月修了/不動産テックマーケティング

論文タイトル:高齢化と外国人化が進む住宅団地における高齢者と外国人の相互関係の構築—都三県築30年以上の都営県営・UR賃貸住宅における自治会活動の分析をつうじて—

少子高齢化社会の中で、高齢者が幸せに暮らすためのまちづくりとコミュニティとは何か、私なりの成功モデルを見つけるべく入学した。

修士研究では、『高齢者と外国人の相互関係の構築』をテーマとした。少子高齢化社会に伴う人材不足から外国人人口が増加しているが、既往研究では高齢者と外国人の共生は難しいとされている。そこで、高齢化外国人化の先進地である住宅団地を対象に、高齢者と外国人へのアンケート・インタビュー調査を行い、その中で交流内容や、相互関係構築に必要な要素を明らかにした。本研究を通して、言葉や文化の壁を越え高齢者と外国人が互いに助け合う関係の構築は可能だと確信した。

改めて、本大学院の授業や研究では、教授やまちづくりに関わる様々な分野のプロである同志とディスカッションを重ね、知見や視座を高めることができる貴重な経験であった。大学院を修了したいま、学んだことや研究を活かし、幸せな少子高齢化社会とは何か追いついていきたい。



調査対象団地で出会ったカンボジア人のコミュニティの方々



玉田 大

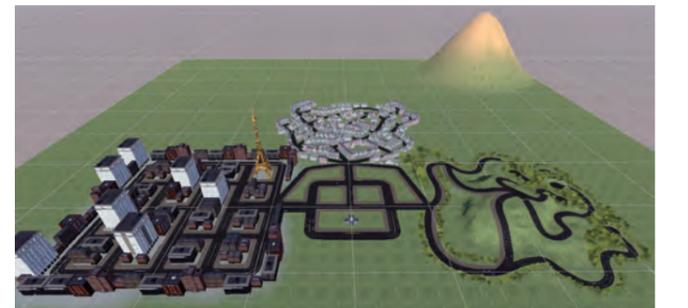
第15期/2024年3月修了/東京大学生産技術研究所・国土交通省

論文タイトル:生育環境と空間認知の関係 仮想空間におけるナビゲーションテストによる検証

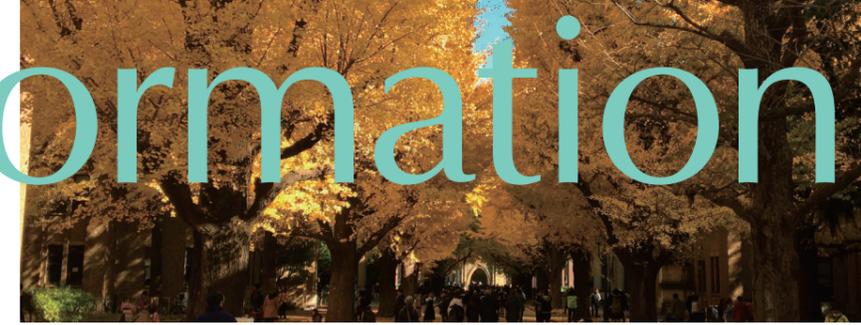
修士研究では、生まれ育った地域における自然環境の有無や道路ネットワークの不秩序性と空間認知の発達の関係について、仮想空間上にナビゲーションテスト用の都市を実装し、200名以上を対象に検証した。本研究は、自分自身の都市体験に加え、神経科学という異分野の知見による着想や同分野における仮想空間を活用した実験手法と当時所属していたゲーム業界の経験が技術的にリンクするなど、様々な文脈が組み合わさったものである。このように様々な分野の知見や経験を包摂できる都市研究及びその学び舎となるまちづくり大学院は、社会人がそれまで築き上げてきた独自の文脈を自由に発散、表現できるこれ以上ない場所であると改めて感じる。



ナビゲーションテストの様子



仮想空間全体を俯瞰した画像



修了要件と学位

requirements for graduation

- 所定の30単位を修得し、修士論文を提出して合格すること。
学位：修士（工学）



■ 長期履修学生制度

職業を有しているなどの事情により、標準修業年限では、大学院の教育課程を履修することが困難であると認められる者に限り、標準修業年限を超えた計画的な履修年限を設定することができる制度です。

修士課程での標準履修年限である2年間で、3年または4年に延長して、計画的に履修することができます。

この制度では、標準履修年限の授業料の総額を長期履修期間として認められた年数で支払うことになります。たとえば、修士課程において、3年の長期履修が認められた場合、1年間に支払うべき授業料(年額)は、2年分の授業料(通常の年額×2)の総額を3(3年間)で除した額となります。

入学試験

entrance examination

- 出願資格(次の①及び②を満たす者)

- ① 大学を卒業した者
- ② 原則として、出願時までに都市の計画、デザイン、マネジメント、整備・保全、あるいはさまざまなまちづくり活動に関わる分野で、社会人として2年以上の実務経験を有する者。

※詳しくは、学生募集要項を参照してください。

■ 2025年度入学試験日程

学生募集要項・入学志望者案内Web公開日 (http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps/)	4月上旬を予定
説明会	4月14日(月) 19:00~ オンライン
出願時期	5月16日(金)~5月22日(木) 15:00
入学試験	6月21日(土)
合格発表	7月17日(木)
入学手続	9月17日(水)(予定)までに必要な手続きを行うこと
入学式	10月1日(水)
開講式・ガイダンス	9月29日(月)

※学生募集要項・入学志望者案内の入手方法は、東大まちづくり大学院のウェブサイトでご確認ください。

■ 入学試験の内容

筆記試験(英語、専門、論理および構想)、口述試験

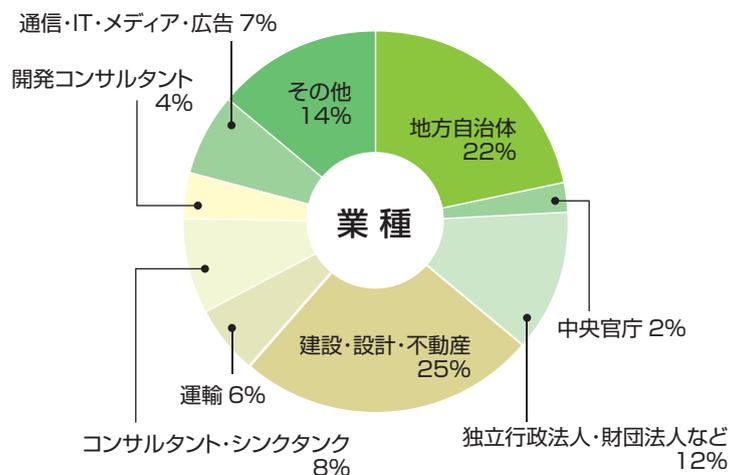
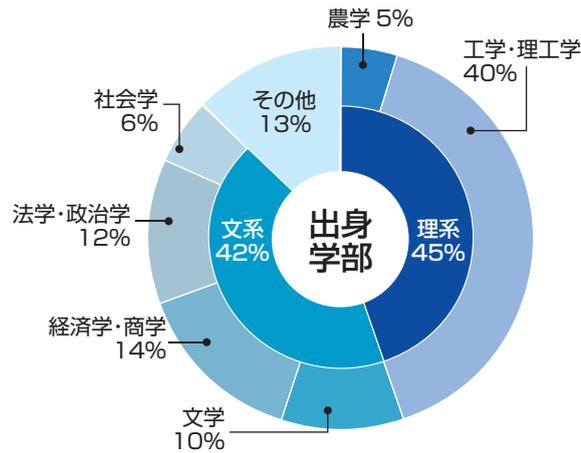
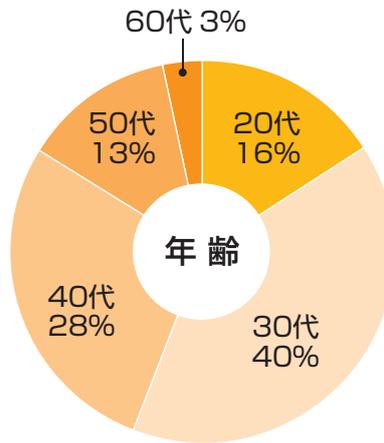
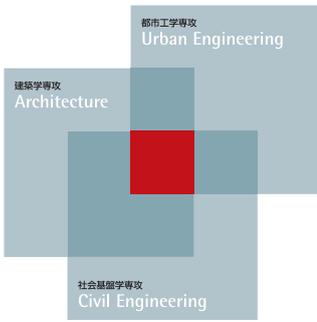
※上記の記述(出願資格・入学試験日程・入学試験の内容)は、いずれも予定です。
入学試験の詳細については、必ず「学生募集要項」、「入学志望者案内」でご確認ください。
※入試過去問題の販売については東大まちづくり大学院のウェブサイトをご覧ください。

■ 2024年度入試結果

募集人員：12名 志願者数：54名
合格者数：19名 入学者数：19名

■ 学費

入学金：282,000円(予定額)
授業料：年額 535,800円(予定額)



※1期~18期(計325人)の学生、入学時の情報を元に作成。

■社会人学生の多様なバックグラウンド

年齢・専門・業種等の異なる多様なメンバーが集まっており、ここで生まれた繋がりが、都市づくり・まちづくりの実践に活かされています。

■お問い合わせ先

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻事務室内 東大まちづくり大学院デスク

TEL:03-5841-8362 FAX:03-5841-0370

E-mail office@mps.t.u-tokyo.ac.jp URL <http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps>

